

授業科目 医療福祉特論	科目概要・形式 1 単位 8 時間 (8 コマ) 講義・演習・実習	配当年次 博士前期 1 年次 前期・後期	オンライン参加 <input type="checkbox"/> 可・不可
科目責任者	瀧澤 透		
担当者	瀧澤 透 葛西 孝幸 尾崎 麻理		
1. 科目のねらい・目標			
ねらい：患者やその家族への支援に関して、理論・アプローチ（特にマルチ・システムック・アプローチ）と患者及びその家族の支援の実務とを関係づけ、理論・モデルに基づく対象把握、実践を行えるようにする。			
目標：①理論の成り立ち、主要概念、方法論等について説明できる。 ②理論・アプローチを踏まえて、自身の実践の省察、評価し、実践の改善課題等について説明できる。 ③3つの対象レベル（個人・地域・組織）において、マルチ・システムック・アプローチに基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントができる。また、自身の実践の振り返り、改善ができる。			
2. 授業計画・内容			
第1回 マルチ・システムック・アプローチとは（1）理論（講義） 理論・アプローチの起源となる 1970 年代～のソーシャルワークにおける「環境」の理解を簡単に説明する。それに基づき、理論の成り立ちと今日的な応用について講義する。理論についてはジェリー・L. ジョンソンとジョージ・グラントの 2005 年の著書「Medical social work」（日本語訳：村上信，熊谷忠和 訳「医療ソーシャルワーク：理論と事例検討」晃洋書房 2008）よりマルチ・システムック・アプローチについて紹介する			
第2回 マルチ・システムック・アプローチとは（2）実践と展開（講義） マルチ・システムック・アプローチが、どのように実務で実践されているのか、主な事例を紹介する。上記の翻訳者である熊谷忠和は 16 人の共著者から事例提供等を受け 2016 年に「多面的視点からのソーシャルワークを考える（晃洋書房）」を著している。今日のソーシャルワーク実践に必要な総合的・包括的な支援と関係づけながら理論の理解を深める。			
第3回 児童生徒の支援とスクールソーシャルワーク（講義・演習） スクールソーシャルワーカーが実際に関わった多問題家族の支援事例を通してマルチ・システムック・アプローチについて演習形式で学ぶ。			
第4回 LGBTQ 支援と医療ソーシャルワーク（講義・演習） 医療ソーシャルワーカーが実践の中から研究を深めた LGBTQ 支援について、マルチ・システムック・アプローチを踏まえつつ演習形式で学ぶ。			
第5回 家族支援と医療ソーシャルワーク（講義・演習） 医療ソーシャルワーカーが実践の中から検討を深めた家族支援について、マルチ・システムック・アプローチを踏まえつつ演習形式で学ぶ。			
第6回 自身の実践による事例報告（1）（演習） 第1回～第5回の講義・演習を受けて、受講者（実務者の場合）による事例発表を行ってもらおう。自身の経験した事例をマルチ・システムック・アプローチの理論を用いて振り返ってもらおう。併せて省察、評価を行い、実践の改善課題等を検討してもらおう。演習の参加者からは積極的な参加を求める。			
第7回 自身の実践による事例報告（2）（演習） 第1回～第5回の講義・演習を受けて、受講者（実務経験の無い者）による事例発表を行ってもらおう。架空の事例をマルチ・システムック・アプローチの理論の枠組みで紹介してもらい、併せて実務者に必要な視点等について検討してもらおう。演習の参加者からは積極的な参加を求める。			

第8回 まとめ

第6回、第7回の各事例検討よりマルチ・システミック・アプローチと自身の実務についてまとめを行う。マルチ・システミック・アプローチに基づく対象把握、実践について参加者で意見交換を行う。

3. 教科書、参考書

教科書 なし

参考書 熊谷忠和・長崎和則・竹中麻由美編著『多面的視点からのソーシャルワークを考える～研究と実践をつなぐ新たな整理～』晃洋書房, 2016

4. 成績評価方法

事例報告を含む講義・演習への参加態度 40%

レポート (2000字程度) 60%

5. 受講要件

- ・ディスカッションに積極的に参加してください。
- ・欠席は原則、認めません。
- ・社会福祉士の資格を有する者は、認定社会福祉士の読み替え科目となる。

6. 社会人学生に対する配慮

原則として夜間開講だが、受講生に合わせて柔軟に対応（土日開講やオンライン開講など）する。

7. その他

オンデマンドは行わない。